

「メッセージ」の活用について

この副読本に掲載している「メッセージ」は、他の読み物資料のように道徳科で中心資料として扱うことも可能であるが、その他の学校における教育活動での活用や、家庭において親子で話しあう機会とするなど、各校において工夫した多様な活用が考えられる。

1 「メッセージ」の趣旨

この副読本は、郷土に誇りを持ち、人と人とのつながりや社会の中での自己の責任や義務、役割を自覚するなど、自己の生き方のよりどころとなるような子どもの心に響く魅力あるものとなるように願って作成している。

そこで、兵庫にゆかりのある方々が、これまでの人生において心を動かされたあるいは揺さぶられた体験、生き方の支えになっている体験等をもとに、地域の先輩として、人生の先輩として、兵庫の子どもたちに伝えたいことや願いを以下 **2 で示す大切にしたい内容**を踏まえたメッセージとして掲載している。

2 「メッセージ」で大切にしたい内容

大切にしたい項目	内 容（小学校）
自他の生命を尊重する心	生命の大切さに関するものであり、生命あるすべてをかけがえないものとして尊重し、大切にする児童を育てる。
ルール・公德心（規範意識）	児童が生活する上で必要とされる社会規範を守るとともに、公德心をもち、それらの精神を日々の生活の中に生かしていく児童を育てる。
礼儀	他の人とのかかわりにおける習慣の形成に関するものであり、状況をわきまえて心のこもった適切な礼儀正しい行為ができる児童を育てる。
自由と責任	自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を大切にする児童を育てる。
勤労	仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役立とうとする心をもった児童を育てる。
他人を思いやる心	他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心をもち実践のできる児童を育てる。
郷土を愛する心	郷土とのかかわりに関するものであり、郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもった児童を育てる。
国際理解	国際理解と親善の心をもった児童を育てる。
家族を愛する心	家族集団とのかかわりに関するものであり、家族や家庭を愛する心をもった児童を育てる。

3 多様な場面での子どもの活用とそれを促す工夫

(1) 学校や家庭の日常生活の中で子どもが活用する

子どもが学校や家庭の日常生活の中で活用する。例えば、学校においては朝の会・帰りの会や読書タイムなどで、また、休み時間や放課後などの自由な時間での活用が考えられる。さらに、家庭においても、子どもが自由に活用したり、家族と話題にしたりすることが期待される。そのために、例えば、日にちを決めて持ち帰る時間を設定したり、長期休業中の活用を促したりするなど、家族と話題にしたり、保護者がメッセージを活用し、子どもに助言したりすることなどが考えられる。

(2) 道徳科で活用する

道徳科の教材として「メッセージ」を活用することもできる。ただ、道徳科においては補助的な資料として用いることが多いと考えられるが、指導計画に位置づけて生かすことも考えられる。

道徳科においては、例えば、次のような場面で活用することが考えられる。

- ①展開段階の中心的な資料として、ある内容項目に関する学習に生かし、内容を深める。
- ②終末段階の題材として、学習したことの明確化を図るために用いる。
- ③導入段階の題材として、道徳的価値に関心を持たせる。

(3) 総合的な学習の時間の動機付けや自己の生き方を考える際などに活用する

総合的な学習の時間においても活用することができる。子どもが興味・関心を大切にし、自ら課題を見つけ、探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方についての考えを深める体験的、問題解決的な学習を行う際、「メッセージ」を課題を見つけるヒントにしたり、体験的な学習への動機付けとしたりして役立てることができる。

(4) 特別活動の各内容と関連させて活用する

特別活動の、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事においても活用することができる。小学校においては、例えば、学級活動(3)、とりわけ「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」や「社会参画意識の醸成や働くことへの意義の理解」にかかわる指導などで生かすことができる。また、学級活動(1)においても、協力して楽しい学級や学校の生活づくりに参画する自主的な取組などの中で活用することができる。さらに、学校行事においては、例えば、様々な活動の事前指導や事後に体験したことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動、動機付けを図る際の題材などとして生かすこともできる。

なお、学級活動(1)などの子どもの自発的、自治的な実践が中心となる活動においては、教師が助言等で補助的に用いるなどして、子どもの自主的、実践的な態度がはぐくまれるよう配慮することが大切である。

(5) 家庭や地域との連携

「メッセージ」は、大人が読んで心にも響き、生き方を考えることのできる内容である。学校で、家庭で、また地域社会などで子どもと一緒に話し合い、子ども理解を深める題材とすることができる。各校においては、学年通信や保護者会などで紹介し、学校と家庭が連携した道徳教育の推進に活用できる。例えば、教師、保護者、地域の人々による懇談会などで道徳教育について話題にすると、時、「メッセージ」の内容を提示することによって、道徳教育への共通理解を深めることができる。また、道徳科の公開授業での活用、各種通信や地域掲示板などでの活用等によって、連携を具体化させることができる。